

会 議 名	第2回生活衛生システム導入業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	平成31年4月9日（火） 10時から 11時まで
開 催 場 所	みなと保健所5階 会議室
委 員	（出席者 5名） 学識経験者 小林 洋 （委員長） 港区みなと保健所長 阿部 敦子（副委員長） 学識経験者 内田 勝也 （委員） 学識経験者 岡本 悟 （委員） 港区みなと保健所生活衛生課長 上村 隆 （委員）
事 務 局	生活衛生課
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	1 開会 2 第1回選考委員会議事録概要について 3 第一次審査等について 4 第二次審査スケジュール（案）について 5 閉会
配 付 資 料	議 事 次 第 資料1 選考委員名簿 資料2 第1回生活衛生システム業務委託事業候補者選考委員会議事録（案） 資料3 生活衛生システム導入業務委託事業候補者選考基準 資料4 生活衛生システム導入業務委託事業候補者選考に対する質問及び回答書 資料5 生活衛生システム導入業務委託事業候補者選考 第一次審査採点表 資料6 第3回選考委員会スケジュール（案） 資料7 第二次審査採点表
会議の結果及び主要な発言	
委員A	1 開会 選考委員に変更がありましたので、事務局から説明をお願いします。
事務局	委員の紹介、配布資料の確認。～詳細省略～
事務局	2 第1回選考委員会議事録概要について 議事録（案）の提示
委員A	議事録（案）の修正はありませんので、正式な議事録とします。
事務局	3 第一次審査等について 第一次審査の説明。～詳細省略～

委員A	採点内容について、評価した点や評価しなかった点について意見交換を行い、本事業者が第二次審査に進むことが適切かどうかを判断したいと思います。
委員C	日常業務や運用について、十分対応できる事業者だと考えられます。特に評価した点は、稼働・保守体制です。保守費にこれらの項目が含まれているので、追加の費用を要する可能性が考えにくい点が優れていると思います。プロジェクトを進める上で、プロジェクトマネジメントオフィスがあるという記述がありますが、今後事務局とどうやりとりを行うのが、重要になると思います。第二次審査で、その点を確認したいと思います。
委員D	パッケージシステムの機能面や保守の部分が充実しており、十分対応できる業者だと考えます。コスト面ですが、見積額は予算規模内で収まっているものの、パッケージの標準機能で大部分をカバーしている割には、カスタマイズの工数が多くかかっています。この点について、第二次審査でより詳細にヒアリングをしたいと思います。
委員A	初年度のシステム導入経費の見積額が6720万円で、次年度から保守費の総額が約740万円ですが、一般的にこの比率は妥当だと言えるのでしょうか。
委員D	標準的なパッケージシステムであれば、保守費は高価な場合でもライセンス費用の20%程度で、一般的には10%台前半だと思います。見積りではライセンス費用が約1900万円で、ソフトウェア保守料が年間で約388万円なので、相場からかけ離れているという印象はないと思います。しかし、ヘルプデスクに関する費用は、初年度の3か月で50万円程度ですが、障害等も高頻度で発生することも想定しにくいことと、職員のみがこのシステムを利用することを考慮すれば、次年度以降も見積書に記載の金額になることが妥当かどうかとも考慮する必要があります。
事務局	障害の発生頻度は、現在のシステムで年に1、2回程度です。ヘルプデスクの利用頻度は、システム導入直後には高いと考えられます。しかし、職員が操作に慣れてくると、頻度は減少すると思いますので、毎年度同じ金額を支払う契約方法と、使用頻度によって金額を変動させる方法等を比較・検討したいと思います。
委員B	機能要件適合度回答書で、「対応不可能」と回答している項目は、各種届出の採番や画面の動作等のシステム基盤に係わる部分が多いという印象を受けます。「対応不可能」の項目は、必ず対応できるよう事業者へ依頼する検討はしているのですか。その場合、システムの基盤を崩す可能性も生じるので、注意が必要であり「検討の結果、妥当性のある提案だったので受け入れる」ということは可能だと思います。「対応不可能」と回答している項目に対する考え方を確認させてください。
事務局	「対応不可能」の項目について、業務に支障が生じるか否かを検討しました。採番については、ほとんどが自動採番ですが、一部に自動採番できないものがあります。しかし、手動で対応できる範囲であり、また、他の項目も業務の根幹にかかわる部分には大きな影響はでないため問題ないと考えています。 懸念事項としては、復命書を作成する際に実査年月日を指定できないのは、業務に支

	障が出てしまいます。手動でもよいので、実査年月日を変更できる必要があります。
委員B	「対応不可能」の項目は、提案事項として他の方法で解決できるということがあれば、第二次審査のプレゼンで説明させる時間を設けるのが妥当だと考えます。 機能要件の解釈が区と事業者で異なっている場合もありますが、業務内容が同様な他区で、この事業者のシステムの導入実績がある以上、機能要件に記載のある方法とは別の方法で、日常業務が円滑に行える体制が構築されている可能性があると思います。
事務局	代替の方法で対応できる場合は、「代替方法・カスタマイズにより対応可能」で回答をいただくものと認識していますが、複数の区でこの事業者が構築したシステムを使っていることから、特段の問題は生じていないと考えています。
委員B	カスタマイズに変更が生じると、構築費も変わることがあるので、ご確認いただければと思います。
委員D	見積りに出ている環境構築の工数として、「対応不可能」の項目については全く含まれていないという認識でよいですか。
事務局	含まれていないと認識しています。一方、「代替方法・カスタマイズにより対応可能」の項目は見積額に含まれています。事業者が正式に決定した後に、詳細な部分については内容を詰めていく必要があると考えます。
委員A	次に、各委員が回答した第一次審査の採点内容について、スケジュールに関する事項で、何かご意見はありますか。
委員C	データ移行のスケジュールを開始するタイミングが早い気がします。
委員A	導入するのはパッケージシステムであるので、「設計」の期間が長く、「開発」は短期間で行うのが通常だと考えられます。
委員D	一か月でデータ移行するのは少し難しいと思います。機能要件・帳票要件適合回答書の「カスタマイズにより対応可能」の項目数を考慮すると、300工数も必要なのかが疑問です。また、特記事項として、「機能要件の大半を標準機能で実現できるため、カスタマイズを抑制できます」という文言があるにもかかわらず、開発の日程に多くを要しているという印象を受けます。 必要な工数を根拠に費用を算出しているので、開発費用が必要以上に高額になっていることを懸念しています。
委員A	以上の討議を踏まえ、この事業者を第二次審査の対象としてよろしいですか。
委員全員	了承

事務局	4 第二次審査スケジュール（案）について 第二次審査スケジュール（案）説明～詳細省略～
委員D	機能面で気になる項目を、事業者にデモンストレーションさせる時間を設けるのはいかがでしょうか。
委員B	デモンストレーションの実施は賛成です。その際は日常業務の作業の仕方について、事業者にやっていただく形式で問題ないと思います。
委員A	4 閉会